

信頼こそ、  
私たちの資産。

**Amundi**

ASSET MANAGEMENT

アムンディ アセットマネジメント

2020年9月

# 広がるESG投資とコロナ危機：実証分析結果と背景考察

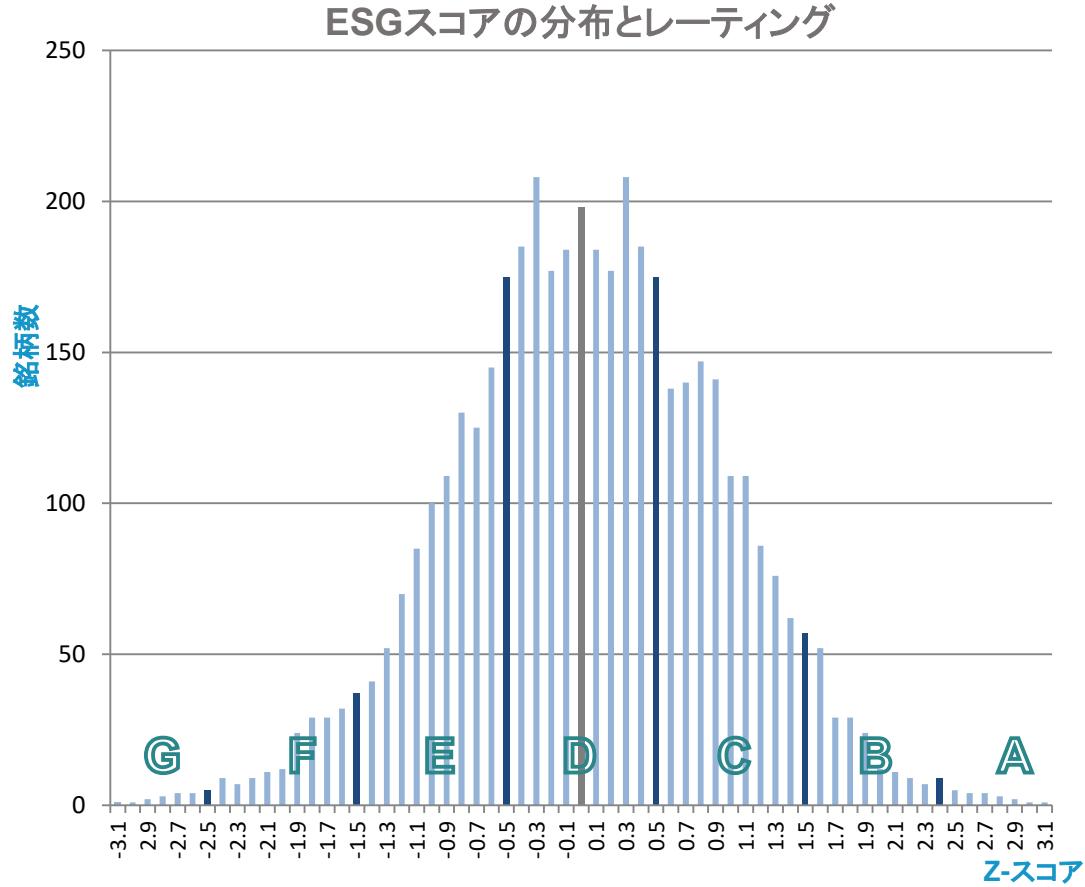
アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者登録番号：関東財務局長（金商）第350号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会 一般社団法人 日本投資顧問業協会  
日本証券業協会 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

# アムンディ独自のESGレーティング

全てのポートフォリオマネージャーが利用できる共通ESGレーティング



ESGレーティング はESG スコア を文字で表記

レーティング AからGまでの7段階 (A=最高位、G=最低位)

ESGスコア = E・S・Gそれぞれのスコアを加重平均。E・S・Gそれぞれのスコアは、関連付けられた分析項目におけるスコアの加重平均

- 普遍的なレーティング:
  - 全ての発行体に一つのレーティングを付与
  - ポートフォリオのESGスコアは、ポートフォリオで保有している銘柄のスコアの加重平均
- セクター中立レーティング: ESGレーティングは、セクター内の順位。特定セクターへのバイアスを防ぐ

出典: Amundi \*ESG分析項目をZスコア化する計算方法 (銘柄のスコアを所属するセクターの平均と比較し、スコアの標準偏差で除した比率)。

# ESG評価とリターンの関係

## 分析手法

- アムンディESGスコアの順位によって「五分位ポートフォリオ( $Q_1$ から $Q_5$ )」を作成
  - スコアはセクター毎に計算されており、セクターの偏りに配慮
  - 各ポートフォリオは等ウェイト
- 四半期リバランス

$Q_1$ :順位が高い銘柄群「ベスト・イン・クラス」

$Q_5$ :順位が低い銘柄群「ワースト・イン・クラス」

「ベスト～ワースト」の差がプラス  
⇒ESGの評価がリターンに反映

【五分位ポートフォリオの例】

銘柄	スコア	順位	$Q_i$	組入比率
$S_1$	-0.3	6	$Q_3$	+50%
$S_2$	0.2	5	$Q_3$	+50%
$S_3$	-1.0	7	$Q_4$	+50%
$S_4$	1.5	3	$Q_2$	+50%
$S_5$	-2.9	10	$Q_5$	+50%
$S_6$	0.8	4	$Q_2$	+50%
$S_7$	-1.4	8	$Q_4$	+50%
$S_8$	2.3	2	$Q_1$	+50%
$S_9$	2.8	1	$Q_1$	+50%
$S_{10}$	-2.2	9	$Q_5$	+50%

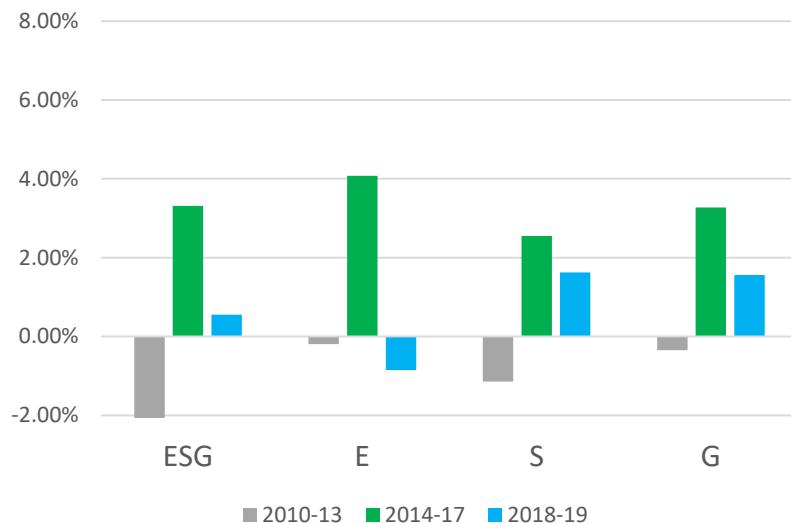
スコアを使って10社を順位づけ、2銘柄ずつで5つのポートフォリオを構成

出典:Amundi

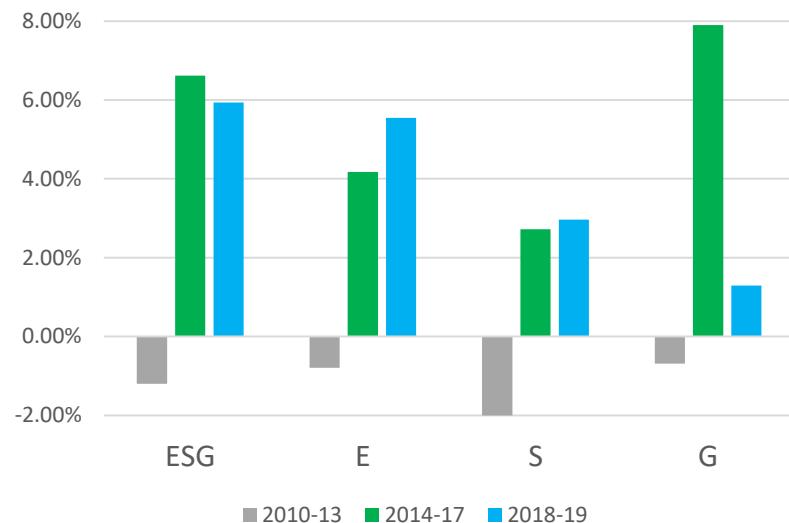
# 観察1:ESG評価はリターンに反映される傾向

3期の比較:2010-13年、2014-17年、2018-19(6月まで)

「ベスト-ワースト」 北米



「ベスト-ワースト」 欧州

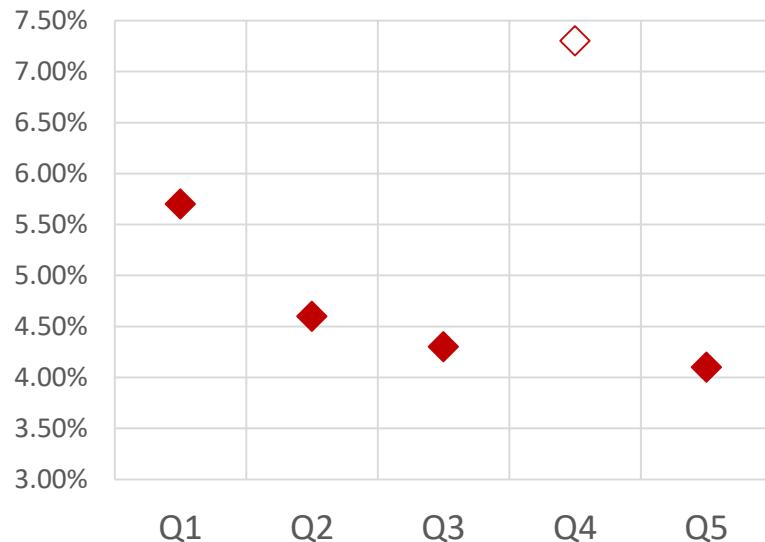


出典:Amundi グラフの縦軸は年率化した第1分位および第5分位ポートフォリオのリターン差

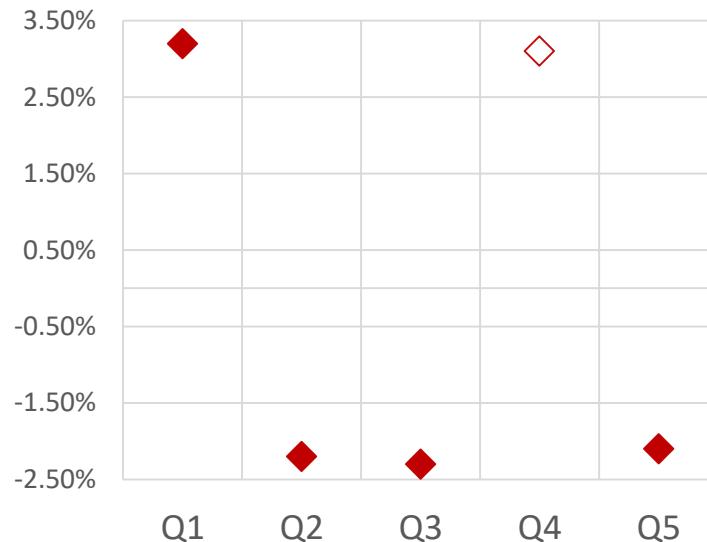
## 観察2: これからの評価改善を期待する動き

期間: 2018-19(6月まで)

「社会(S)」 5分位ポートフォリオ  
年率リターン (北米)



「環境(E)」 5分位ポートフォリオ  
年率リターン (欧州)

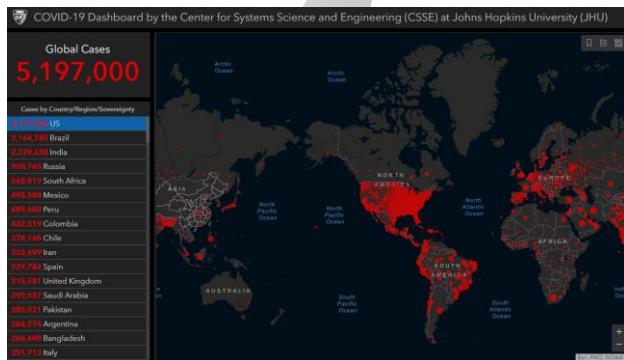
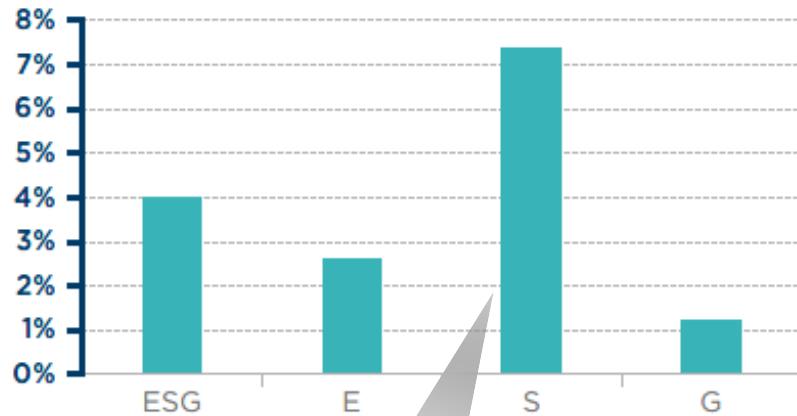


出典: Amundi グラフの縦軸は年率化した分位ポートフォリオのリターン、横軸の値はポートフォリオの分位を示す(Q1=第1分位、Q5=第5分位)

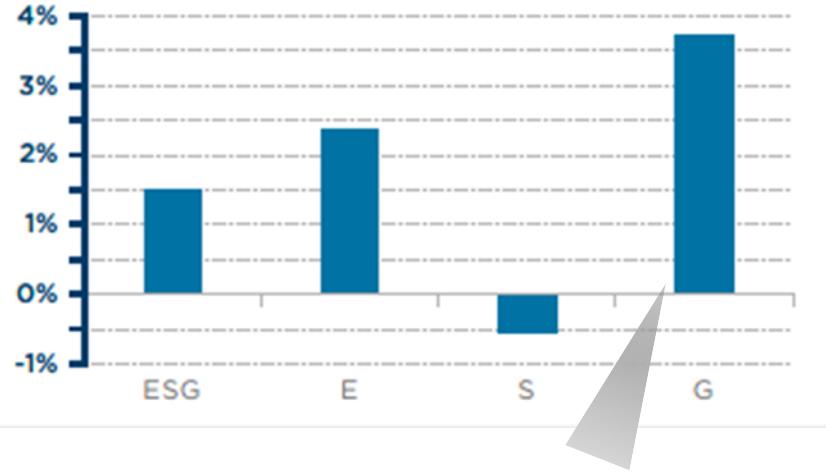
# 観察3:2020年Q1 コロナ危機下の市場の反応

「社会」(北米)と「企業統治」(欧州)を通じた持続性評価

「ベストワースト」北米



「ベストワースト」欧州



EUROPEAN CENTRAL BANK

BANKING SUPERVISION

PRESS RELEASE

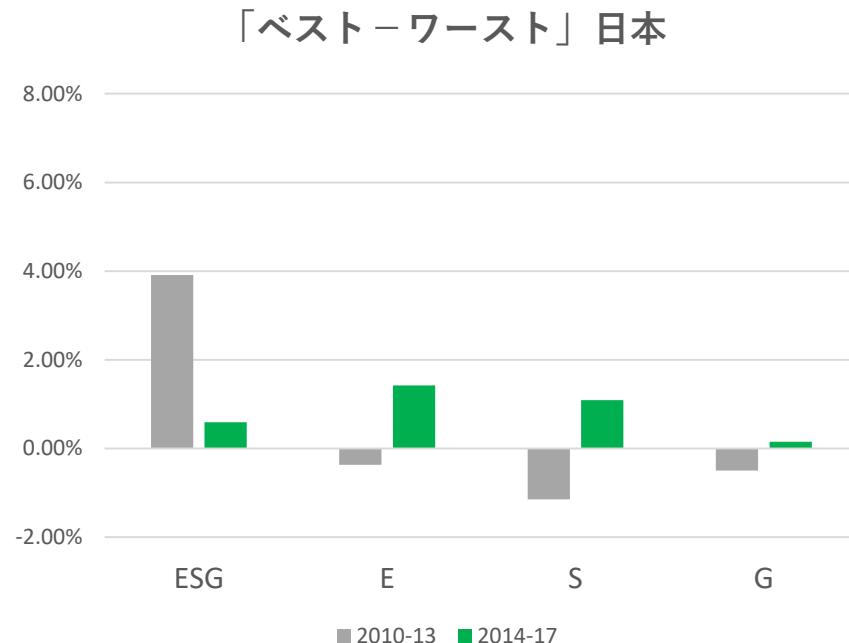
ECB asks banks not to pay dividends until at least October 2020

出典: Amundi グラフの縦軸は年率化した第1分位および第5分位ポートフォリオのリターン差 CSSE at Johns Hopkins University ([www.arcgis.com](http://www.arcgis.com)) ECB ([www.bankingsupervision.Europa.eu](http://www.bankingsupervision.Europa.eu))

# ご参考: 日本

2期の比較: 2010-13年と2014-17年

最近のESG投資の動きが、  
価格形成に反映されるもの  
と期待



出典: Amundi グラフの縦軸は年率化したポートフォリオのリターン、横軸の値はポートフォリオの分位を示す(1=第1分位、5=第5分位)

# アムンディのESGレーティング

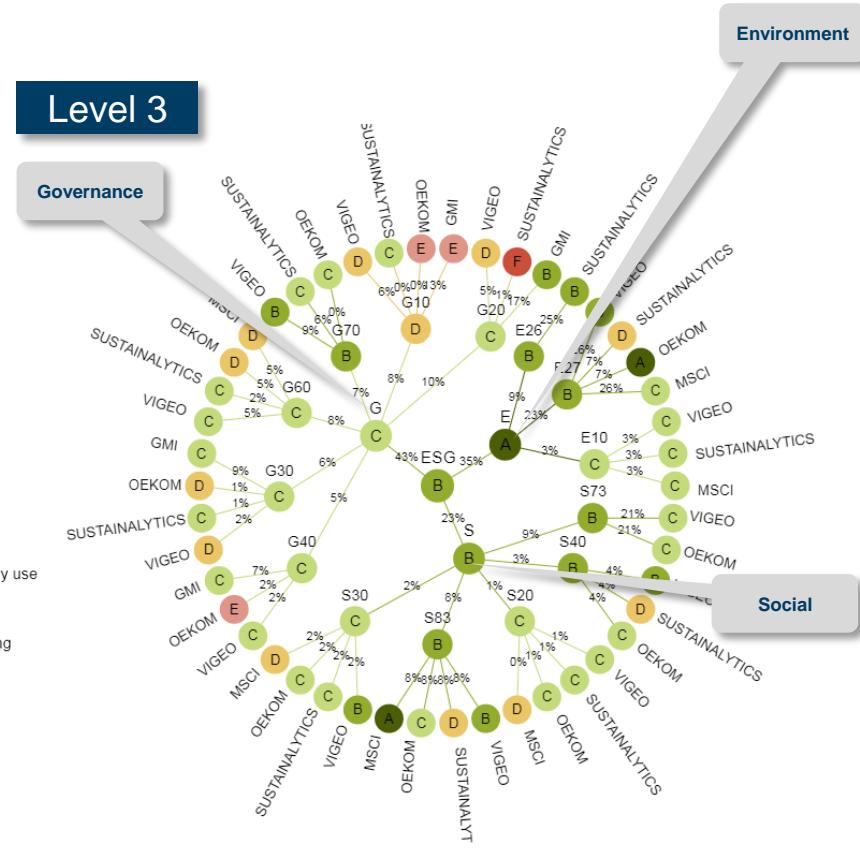
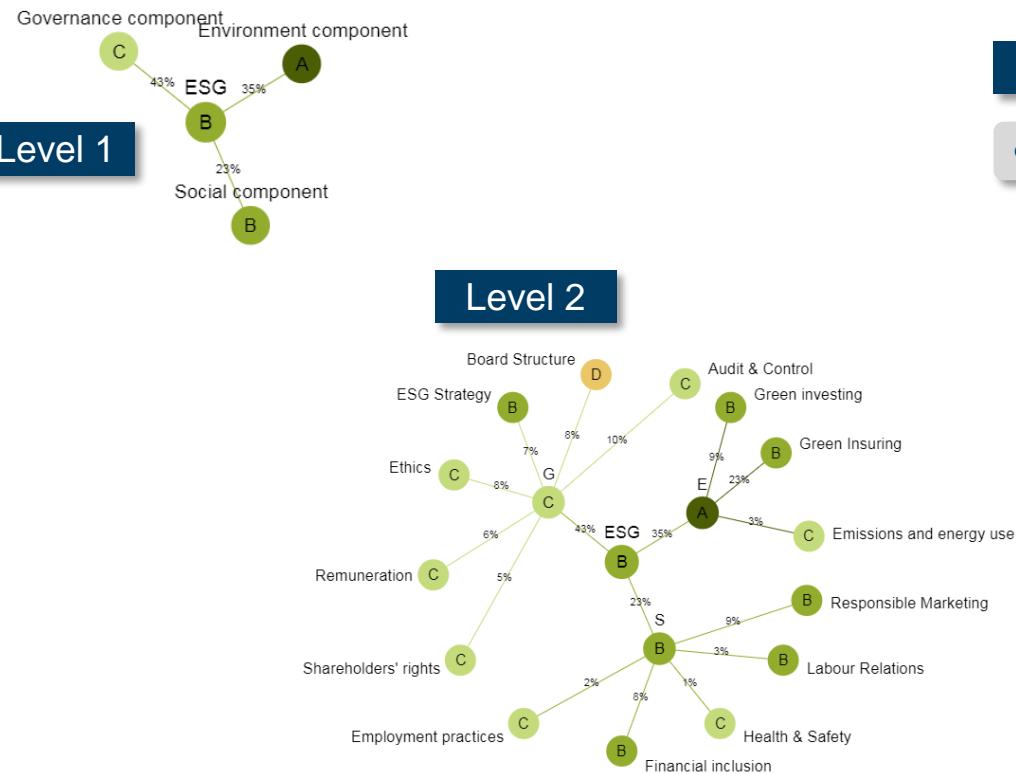
定性アプローチと定量アプローチの融合



出所:アムンディ 2019年12月現在

## ESGレーティングの透明性とトレーサビリティ

## ESGセクターAnalystがESG評価項目、及び評価ウェイトを設定



Source: Amundi, April 2018

# ESGセクターAnalystによる妥当性評価

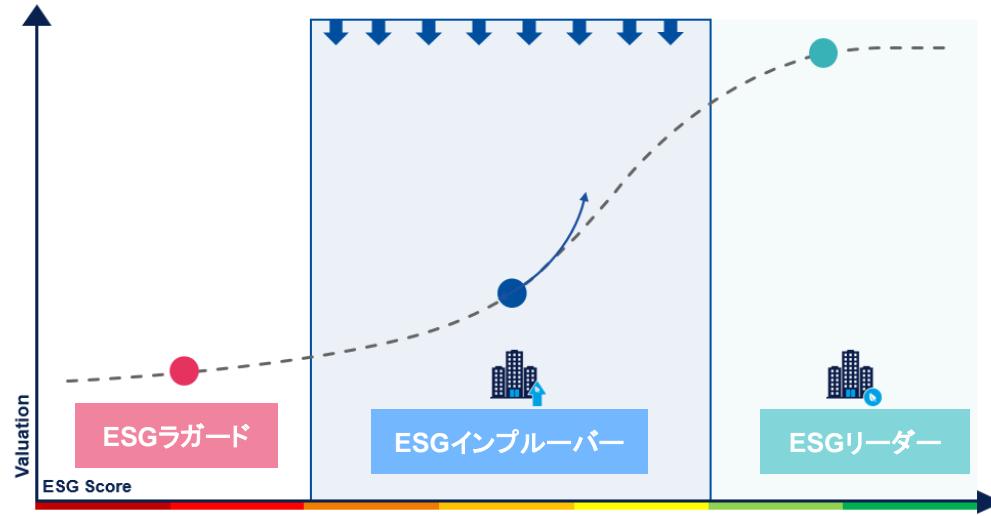
ESGセクターAnalystの評価を外部データよりも優先

— ケーススタディ: 国際的食料品会社



Source: Amundi. February 2019. Given for indicative purposes only, may change without prior notice.

# ESGインプルーバー: ESG評価の改善を収益の源泉



ファンダメンタル分析およびESGをダイナミックに活用することで、  
将来ESGリーダーとなる企業へ投資  
ESG評価の改善を超過収益の源泉とする

当スライドはご参考です。

# ESG評価の改善を収益の源泉とする2つの投資戦略



ESGインプルーバー戦略



ジャパン・エンゲージメント戦略

ESG評価の改善機会を捉えるためのダイナミックなESGアプローチ

3

企業の持続的成長の原動力



2

将来財務情報としてのESG



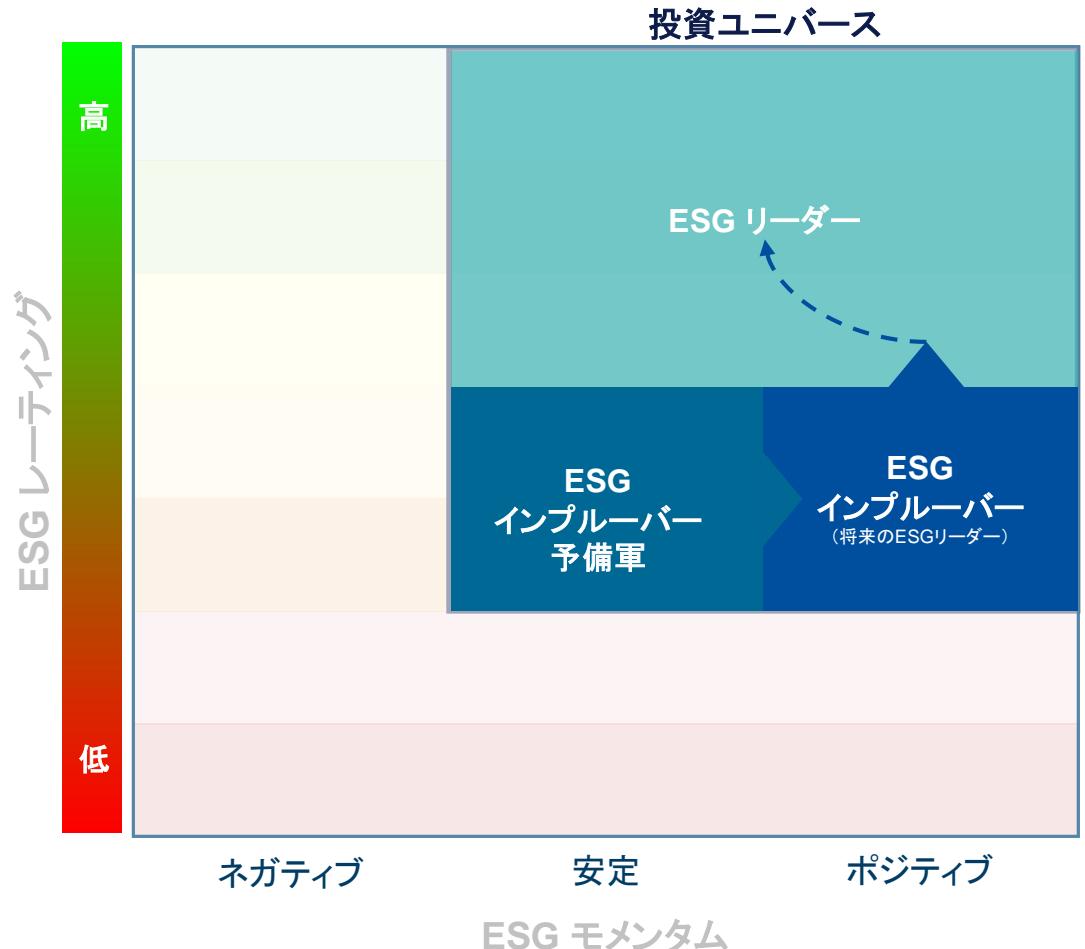
1

企業価値において  
重要なESG項目の推移



# ESGインプルーバー: 投資対象

ダイナミックなESGアプローチで将来のESGリーダーを特定、



# 免責事項

本資料は、アムンディ・ジャパン株式会社が投資家の皆さんに情報提供を行う目的で作成したものです。

本資料は、本資料に含まれるいかなる金融商品の販売や媒介を意図、または購入あるいは売却を勧誘する目的で作成されたものではありません。

本資料は法令に基づく開示資料ではありません。

本資料に記載した弊社の見通し、予測、予想意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また、見通し等や過去の運用実績を含むいかなる内容も、将来の投資収益等を示唆または保証するものではありません。

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、情報の正確性、完全性について保証するものではありません。

本資料に記載されている内容は、全て本資料作成日以前のものであり、今後予告なしに変更される可能性があります。

弊社は、本資料に含まれる情報から生じるいかなる責務(直接的、間接的を問わず)を負うものではありません。

弊社の許可なく、本資料を複製または再配布することはできません。

# 当該戦略のリスクと手数料について

当戦略のリスクについて:本資料記載の運用戦略は、主に、株式など値動きのある有価証券(外貨建資産には、円に対する為替レートの変動により当該資産の円換算価格が変動する為替変動リスクもあります。)に投資しますので、価格は変動します。したがって、これらのプロダクトは投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。このプロダクトの主な価格変動要因は株式の価格変動要因(価格変動リスク・信用リスク・流動性リスク)です。

「ジャパン・エンゲージメント戦略」の手数料等について:

〈直接ご負担いただく費用〉

(1)投資顧問報酬 運用資産の期中平均額に対して、税別:年率 0.03% \*実質的負担額 (注)本契約においては、当社が設定等を行う投資信託を組み入れることから、投資顧問料と信託報酬の二重徴収を避けるため、投資顧問料率を調整いたします。上記料率は、国内株式ジャパン・エンゲージメントの投資顧問料率(一律0.88%(税別))から、アムンディ・ジャパン・エンゲージメント・ファンド(非課税適格機関投資家専用)の委託会社信託報酬率(0.88%(税別))を控除して得た料率(ただし、下限 0.03%(税別))とします。

〈間接的にご負担いただく費用〉

(2)その他の費用 プロダクトにおいて投資する有価証券の売買委託手数料 (3)組入れますアムンディ・ジャパン・エンゲージメントファンド(非課税適格機関投資家専用)の費用等 ①信託報酬 純資産総額に対して年率0.95%(税別) (委託会社 0.88% (税別)、受託会社および販売会社合計 0.07%(税別)) ②信託財産留保額 基準価額の0.3% ③その他の費用 ファンドが投資する有価証券(親投資信託を除く)の売買委託手数料、監査報酬等をファンドより支出いたします。その他の費用およびその合計額については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を示すことができません。\*なお、投資一任契約締結にあたり、信託銀行と特定信託契約を締結していただきますので、別途信託銀行へ信託報酬のお支払いが必要になります。

「ESGインプルーバー戦略」の手数料等について:

現在検討中のため、未確定です。